

秘密

五

栄城湾偵察報告

今般栄城湾偵察、余ニ依リ其实視景况ノ一般、同
所吉松釜釜屋面大尉、報告ヨリ之ヲ略ス左ニ注視ス所、
数件而參考ニ供シ候

一 本湾内底質ハ泥土ナリ

一 本湾ノ別战略圖ノ外点線ヨリ以内ノ南風ノ外、河風ニテ先

分ニ避ケ得

組敵沿岸ノ偵夫數各ニ開ク事季節ハ北ノ風ニシテ
南東風ハ決ニ吹カズ唯降雪ト共ニ北風ノ強キヲ例トス

去リ

一 湾ノ南岸岬ニ於テ狭長瓦踏橋的一鍵鎖ヲ程取方ニ
向テ出シ(畧圖参照)

海報第四十三號

0668

本城三連入不瓦三灣、遠巨高、灣ノ中火ヲ認ムルニ

約北々東ニ當リ、松林、松林、松林、注視スニ(略圖参照)

揚兵ニ遣スル陸岸ハ、灣ノ連入不瓦ノ左方柳半露岸ニ松

林一團アリ此邊傍尽ク破ニシテ、端船ハ岸ノ東際附着

ニ得小蒸汽船ハ約三ノ下ニ、所迄遠大ニシテ此破

ノ長サ約六、鐘鎖ヲ以テ揚兵ニ充分ト思考

又(略圖参照)

一略回内点線取テ西岸ノ松林ヨリ東岸ノ松林ニ北端

見通シ、線送ニ船ヲ進入スルヲ得ニ

一水灣ハ揚兵ニ長サト是唯灣内狭隘ナリ、一点点アリ

故ニ舟運送船ハ可成水ノ許ニ限リ、外点線以内

進入ニ短鎖ヲ以テ鎖泊スルヲ要ス、依テ各船長

御下命相成候、可然ト思考ス(略圖参照)

一灣外約二哩沖合、海面ニ魚敷ノ漢網ノ浮標(徑寸長カ
五尺、九尺)
アリタリ是ヨリ以內ニ必シク見ズ依テ艦船ノ航進ニ注意
アラシマヲ要ス

但揚兵見取初、日ニ於テ右浮標ノ小索ヲ切斷セ、夜中
ノ航行ニ危険ヲカルヘシ

右別圖相添此段報告也

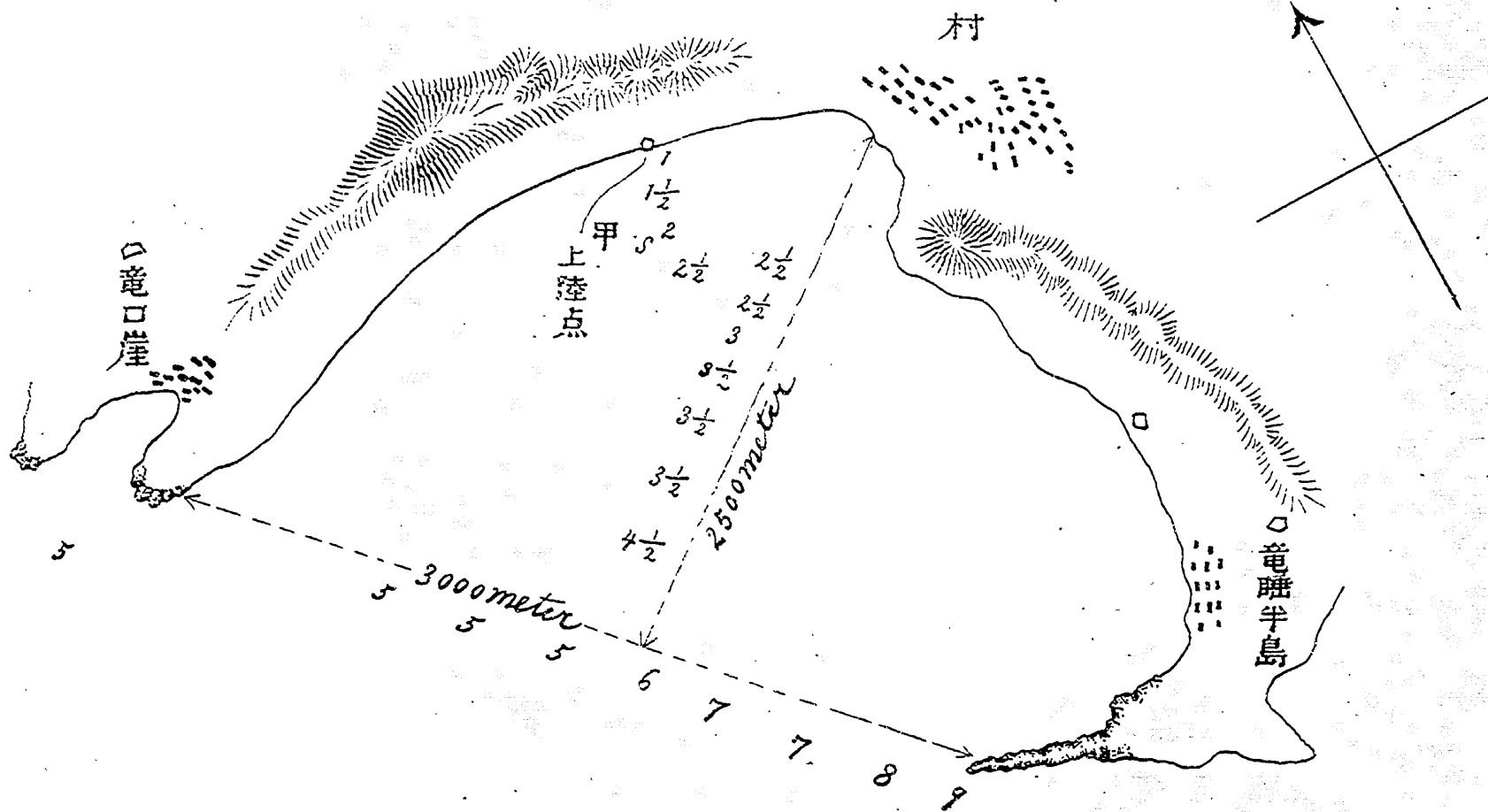
明治二十七年十二月二十七日

八重山艦長 平山藤次郎

聯合艦隊司令長官 伊東祐亨 殿

0670

0671



軍艦高千穂ヲ山東角附近偵察

報告

小官等余ニ依リ三月二十三日午後四時半高千穂ヲ大連湾公港翌廿四日及廿五廿六五日、西日ヲ以テ山東角、南梁城湾、黄倫湾及萊灣湾ニテ陸軍ヲ上陸セシムルニ最モ適良ノ地莫ク偵察シ甲乙ニテ所ヲ標定スルヲ得タリ

(甲) 山東角ト南ニ突出セル小ナル半島ヲ龍膽島ト云フ該島ノ西ニ相對シテ龍胆崖トシテ間海水湾ハセルリ廣ク三ノリトシ余深ク二十五百メートル許リ湾口深ク五ノリ乃至九ノリ深ク近ク從

潮淺レ、盛氏灣ノ内外船數十艘
 碇泊セルルニ、且ツ其西北東西南
 陸ヲ以テ包ミ、開ク所ハ其南方一面
 ノ、故ニ昔々節ニ於テ強ク風波ノ患
 ナレ、灣ノ岸ル所人家五六十戸アリ、又、那
 航三十余艘ヲ、津濱ニ、或揚ケアルヲ、認リ、又
 此附近ニ村落ハ九アリ、濱岸ノ村落ノ名
 所、シヤンクアラサルナレ、故ニ之ヲ集メ、其後
 ヲ得、二百数十艘ノシヤンクハ、立トシ、舟ヲ
 得ベシ
 其後、等汽艇ニテ、測鏡ヲ投シ、山岸濱
 達シ、群カニ之ヲ、視察スルニ、体砂地ニシテ
 其深、近岸ニ至ルニ、テ、恰、適、カ、リ、以、テ、直

ナニ端舟若クハ流能ク横付ニテ得鏡
 機橋材料ヲ自備シバ以テ人馬共ニ容易
 ニ揚陸スルヲ得ベシ上陸真如松樹十五
 六株ヨリ直ニ道路ニ通シ實信柱アリ近所
 追砲艦ヲ容ルニ足ル故ニ若シ敵艦ノ
 患マシハ砲撃ニ便シテ地形殆ト敵ノ
 隠伏ニ便ナラズ我上陸真トシバ稀ニ得
 難キ道良ノ地莫クアリ
 陸上諸村落ニハ兵士ノ人氏ハ極平穩ニ
 テ殆ト戦争ノ有無ヲ知ラザルモ、如ク我等
 自ラ英國人ナリト稱スルハ彼等直モ疑ハザル
 モノニ似テ地原城ヲ離ルテ約四里ノ
 海濱ヲ臨ミ十五里ニ過キテ土民ノ言ニ依

六宮地ハ此處ニ岸ハ景氣を暖氣ニシテ終年
凍氷スルナク又井水此ノ下ニ雖モ河水ヲ引テ
テフ山東南ヲ威海衛ニ通ル電線ハ
去ル五月出來セリ燈台ハ俄人ハ九人ナルガ
内二人ハ英人ナリト云フ

榮城果ヨリ山東南迄ヲ竜樹島ト云フ
ハ九ヶ村アリ毎村ヲ數四五十戸アリ榮城ハ
海上ヨリ明カニ望見スルヲ得ヘリ果ノサシク
東方ニ砲台ラレキモノアレバ大砲ノ備スルヲ
見ズ王人ノ書ニ依テ此處ニ三兵ナリト云
ヘリ

雪ハ榮城ヨリ西方ノ山ニ多ク山東南附近
ニ至ルニ從ヒ更ニ見ル所ナリ

0675

陸軍ノ赤穂宿ニ集ル旅順ニ於テ捕虜
ナリシ支那人肆ヨリ孰ハ特例ヲシホ人間
ヒ来リレシ以テ陸上檢様ヲ標ルニ母時、便
益ヲ得タリ其支那人ノ元上旅順ニ於テ
巡査ノ役ヲナシモソノニシテ生地ハ山東省登
洲府ナリト云フ

(乙) 赤穂湾ヲ上陸情通ノ地ニシテカラスト
最モ湾内荒蕪タシ過キ北風ノ時ト虽モ
其余波從テ陸ヲ難シ故ニ北ノ巖傍
湾ヲ標ラント欲レ汽艇ニテ測鋸ヲ投シテ同
湾ノ北岸ハ青島灘ニ入リ親シク之ヲ見
ルニ西南ノ岸瀆永結シテ向クニク其山上
ニ雲ニテ海底ニ深クシテ近岸ニテ城ヲ據

0676

大船ヲ磯沖セシムルニ産リ周囲ノ地形上陸
 過セザルニ然レモ甲ヲ比スル北風
 急波ヲ避ケ難キヲ寒氣ヤ、屢キ道
 程速クシテ悪シキヲ劣レリトス近出所ニ
 ヤ、天ノ村荒蕪多ク土人ノ言ニ依レバ
 軍城及ヒ文登里ヲ臨ルコト我トモ
 当地方マシ、支那兵ナレト云フ思フニ
 精粗ノテ平穩ナリ
 之ヲ要スルニ岨上陸地ニ遠スル所財ナク大ニ
 モ小皆等甲ヲ以テ最良ト認定セリ
 去ル二十三日大連湾出港以來本日帰来ニ至
 ル迄天候極メ平穩暖氣ニシテ海上ノ氣象ニ
 執テ、更ニ得ル所ナシ

0677

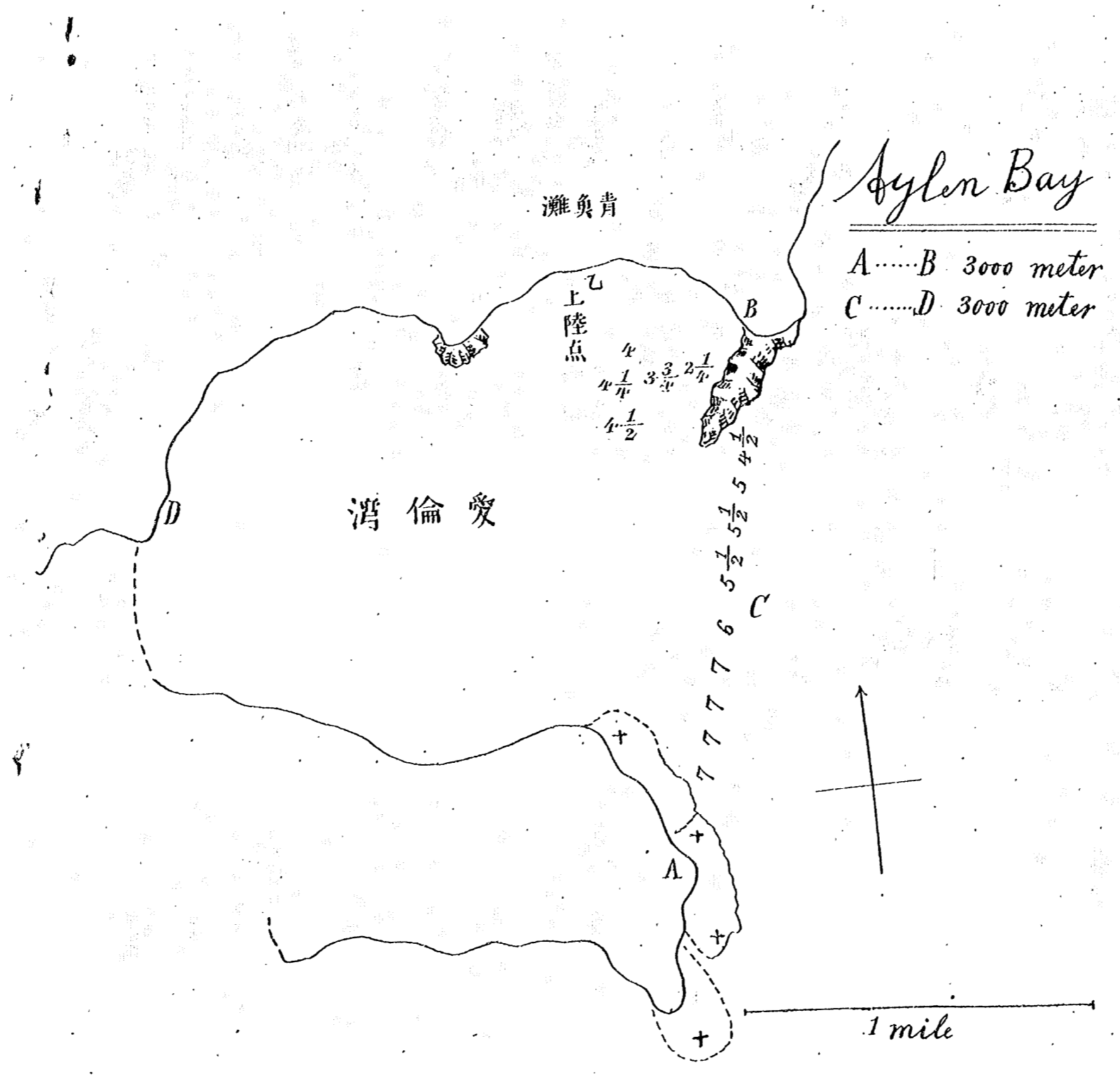
八重公艦長ノ言ニ依ル本月十七日頃ハ天津
通ノ汽船ノ往復日ニ我艦ノ多キアリト云フ
然レ長今由公長中ニ一艘遭遇スル所ト云
河ノ凍結ニ因リナラシ
別紙高千穂航海士志山少尉見取圖相添
へ便案ノ結果及報告候也

大正七年十二月二十六日

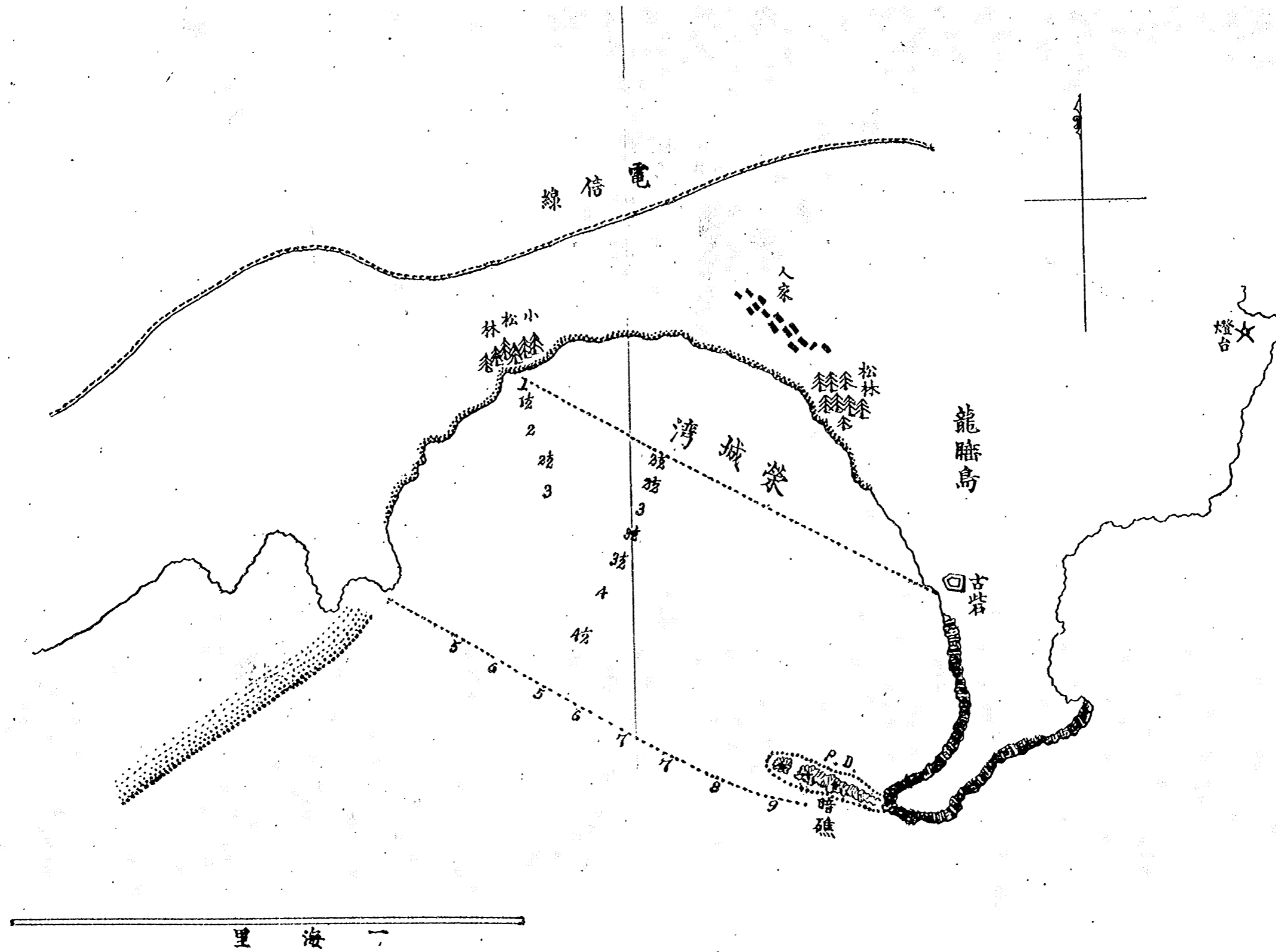
常備艦隊參謀金屋忠道
西海艦隊參謀吉松茂吉

聯合艦隊司令長官東郷平八郎

0678



0679



0680